

307 甲状腺機能異常を合併した心房細動症例における¹²³I-MIBG心筋シンチグラフィの特徴

中瀬恵美子、松村憲太郎(京都南 循内) 斎藤孝行、橘川信忠、原口隆志(京都南 放)

左室駆出率正常(EF:70±9%)で冠動脈疾患のない心房細動(lone af)16例(男8、女8例、平均73±9歳)を甲状腺機能亢進(H)、低下(L)、正常(N)群に分け検討した。¹²³I-MIBG心筋SPECTで交感神経分布異常を、心縦隔比(H/M)で心筋摂取率を求めた。af群全例のH/Mは1.85±0.46と低下、SPECTは全例異常を示した。H/Lは H群2.30±0.35, L群1.48±0.44, N群1.78±0.25で、H群で正常値を示した。心筋SPECTはH群に比しL群、N群で異常が著明であった。心房細動では¹²³I-MIBGの心筋摂取率が低下しているが、甲状腺機能亢進症を合併すれば心筋摂取率が正常化しており、心房細動の¹²³I-MIBG像を評価する際には甲状腺機能異常に注意する必要がある。